

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

伊勢湾の「豊かな海」再生 三重県知事へ要望 -11/22 (水) 三重県庁にて-



11月22日(水)、三重県黒のり養殖研究会の木下和行会長と、三重県黒のり事業推進委員会の大橋純郎会長、三重漁連役員らが三重県庁を訪れ、鈴木英敬三重県知事に対して、伊勢湾の「豊かな海」再生に向けた要望書を提出した。

近年、ノリの生産時期となる秋から冬にかけて、海域における窒素・リンなどの栄養塩類の低下によるノリの色落ち被害が深刻となっており、漁期の早期終了を余儀なくされるなどの厳しい情勢が続いている。

色落ちの原因となる栄養塩類低下の背景には、水質総量削減計画における栄養塩類の総量規制が挙げられる。これは、水質改善の観点から、水質汚染の要因となる窒素やリン等の栄養塩の排出量を規制するものであるが、その一方で、ノリの色素を形成するために必要な栄養

塩が低下しているため、ノリ養殖業に大きな打撃を与えているとともに、アサリやばっち網漁業にも影響を及ぼしているのではないかと意見もある。

このような中、他県では、海域へ流入する栄養塩量を増やすため、下水処理場の排水規制の緩和や調整運転等、海域、漁業特性に応じた対策を行うところも出てきている。

本要望では、水質の保全を第一としつつ、今後もノリ養殖業を絶やさず安定的に継続することが出来るよう、本県でも早急に対策を講じることを求めている。

【重点要望事項】

1. 第8次水質総量削減計画における栄養塩類(窒素、リン)の削減目標量の引き下げ
2. 黒ノリ漁期中(10~3月)における栄養塩類(窒素、リン)を増加させることを目的とした下水処理場における管理運転の実施
3. 河川の土砂堆積により、栄養塩の海域への流出が阻害されているため、現状を改善するための浚渫を実施
4. 生物生産力の高い「豊かな伊勢湾」を取り戻すため、科学的な原因究明と恒久的な対策の構築

**平成 29 年度漁期
アサクサノリ張り込み開始！！**



11 月 17 日（金）、桑名地区において、平成 29 年度漁期のアサクサノリ網の張り込みが行われた。

アサクサノリは、昨年度、黒のり全国共販の最高値 17,000 円（100 枚当たり）を記録したこともあり、生産者らは意欲的に生産に取り組んでいる。

今年度は述べ 19 名の生産者が養殖試験を実施しており、今後の生産に期待がかかる。

**第 54 回三重県定置漁業研究発表会
－11/14（火）尾鷲市にて－**

11 月 14 日（火）、尾鷲市文化会館にて、「三重県定置漁業研究発表会」が行われた。これは、三重県定置漁業協会（会長：古川正和氏）が主催しているもので、県内の定置漁業関係者、県、漁連など約 40 名が参加した。

はじめは、尾鷲漁業協同組合の仲本部長より「地域再生への道のり～（株）早田大敷の取組とサポート～」題した地域再生の取組について発表があった。人口減少

や自治組織の解散等、地域が抱える問題に触れ、それらを打破するためには産業の中心である大型定置網の安定経営を図ることが重要であることや、（株）早田大敷が協力参加している「早田漁師塾」の取組を紹介。新規漁業就業希望者の受入（4 週間、住み込み）を積極的に行ったことで若い年代の乗組員が増え、浜や地域が活気づいたことを成果として挙げた。

また、同社が推進する操業改革についても触れ、操業体制や漁撈技術、販売方法の改革を進め、さらなる経営安定を図るため、地域一丸となってサポートを続けていくと述べた。

当日はそのほか、三重県農林水産部漁業環境課の永田主任より「太平洋くろまぐる小型魚の漁獲に係る定置網の共同管理グループへの操業自粛要請」について、三重県水産研究所の久野主幹研究員より「熊野灘における 2017 年春ブリ豊漁と 2018 年春に向けた見通し」についての講演があり、参加者らは熱心に耳を傾けていた。

【主な予定】

○11 月 25 日（土）

第 13 回伊勢・三河湾の環境と漁業を
考える（名古屋）

○11 月 27 日（月）

三重県産水産物展示商談会（東京）

○12 月 2 日（土）

全国シーフード料理コンクール
（東京）